

(タイトル：新たな入学者をゲットする方法)

## 社会人学生受入の為の授業支援システムの構築について

チーム名：う〇ぎパイ2009

### 1、課題背景

現在、少子化の進行に伴い、いわゆる全入時代が到来した。大学の4割、短大の6割が定員割れをする現状の中で、各大学では学生の確保が困難な状況が続いている。この状況を打開する為にも、新たな入学者を集める必要性があろう。

日本は世界と比較しても、25歳以上入学者の割合が非常に低い傾向にある。しかし、それはまた、今後のターゲットとして大きな可能性を秘めているともいえるのではないか。そこで、我々のグループは特に就労者（以下、社会人とする）を対象とし、彼らの入学を促す、より魅力ある大学を作る為の1つとして、学習環境を整えるシステムの検討をした。

### 2、社会人の大学に求めるニーズ

社会人が大学に求めるものは大きく分けて以下の3点が挙げられる。

- ①最先端情報の取得
- ②人脈作り
- ③自己研鑽（スキルアップ）

これらは社会活動において、非常に有効で今後の財産ともなりうる。このメリットを考えると潜在的なニーズはあるように思われるが、なぜ社会人学生が少ないのだろうか。

### 3、問題点

大学・社会人それぞれの立場から検討をした結果、社会人学生の少ない理由として以下の問題点が挙げられる。

#### 大学側

- ・人的問題（夜間・土日開講による負担、教職員の負担の増加）

#### 社会人側

- ・時間的問題（時間が空けられない、仕事による急な欠席等）
- ・地理的問題（通学の負担）
- ・社会的問題（周囲の理解が乏しい）

これら双方の問題を解決しなければ、社会人学生の増加は見込まれないであろう。

### 4、仕事と両立できる環境の確立

社会人の入学を促進する為には、仕事と学習が両立できる環境を確立することが非常に重要ではなからうか。そこで我々はその手段として

- ①長期履修制度の導入
- ②学習フォローアップシステムの構築

を提案したい。

#### 4-1、長期履修制度の導入

この制度は社会人の大学受入れを促進することを目的とし、職業を有している等の理由により標準修業年限で修了することができない学生を対象に、年限の延長、授業料負担を軽減する制度である。

長期履修制度の導入で社会人の時間、経済的問題を解決することが可能になる。

#### 4-2、学習フォローアップシステムの構築

あくまで登校してもらうことを前提とするが、以下のような情報技術を活用したフォローアップシステムを導入することで、社会人がより学びやすい環境を作るだけでなく、教職員の負担をも軽減すると考える。

##### ①事前出席確認申請システム

- ・出席を事前に確認し、教員がそのフォローアップをするシステム

##### ②e-Learning

- ・欠席した授業の映像を再生する
- ・学校へ行けない場合の双方向通信による遠隔授業
- ・Webによる到達度確認テスト

##### ③レポート提出システム

- ・地理、時間的問題を解消するWebシステム

##### ④コミュニティーサイト

- ・質問ボックス
- ・学習履歴記録（社会人、教員双方によるPDCA可能）

### 5、総括

制度や学習フォローアップシステムの拡充により、社会人学生の受入環境を整えていけば、社会人学生の増加は今まで以上に見込めるだろう。また、社会人学生が増え、高校からの進学者との交流が盛んになれば、学生間の中で社会・仕事観の養成や、モチベーションの向上による学力UPにも繋がっていくのではないかと。

### 6、評価・課題

チーム「8人のうなぎ達」から「通信教育や2部制とどの様に差別化を図るかが重要」との指摘を受け、検討事項としたが、研修期間中に明確な結論を出すことができなかった。社会人入学者をゲットする必要性から、今後も検討課題としていきたい。